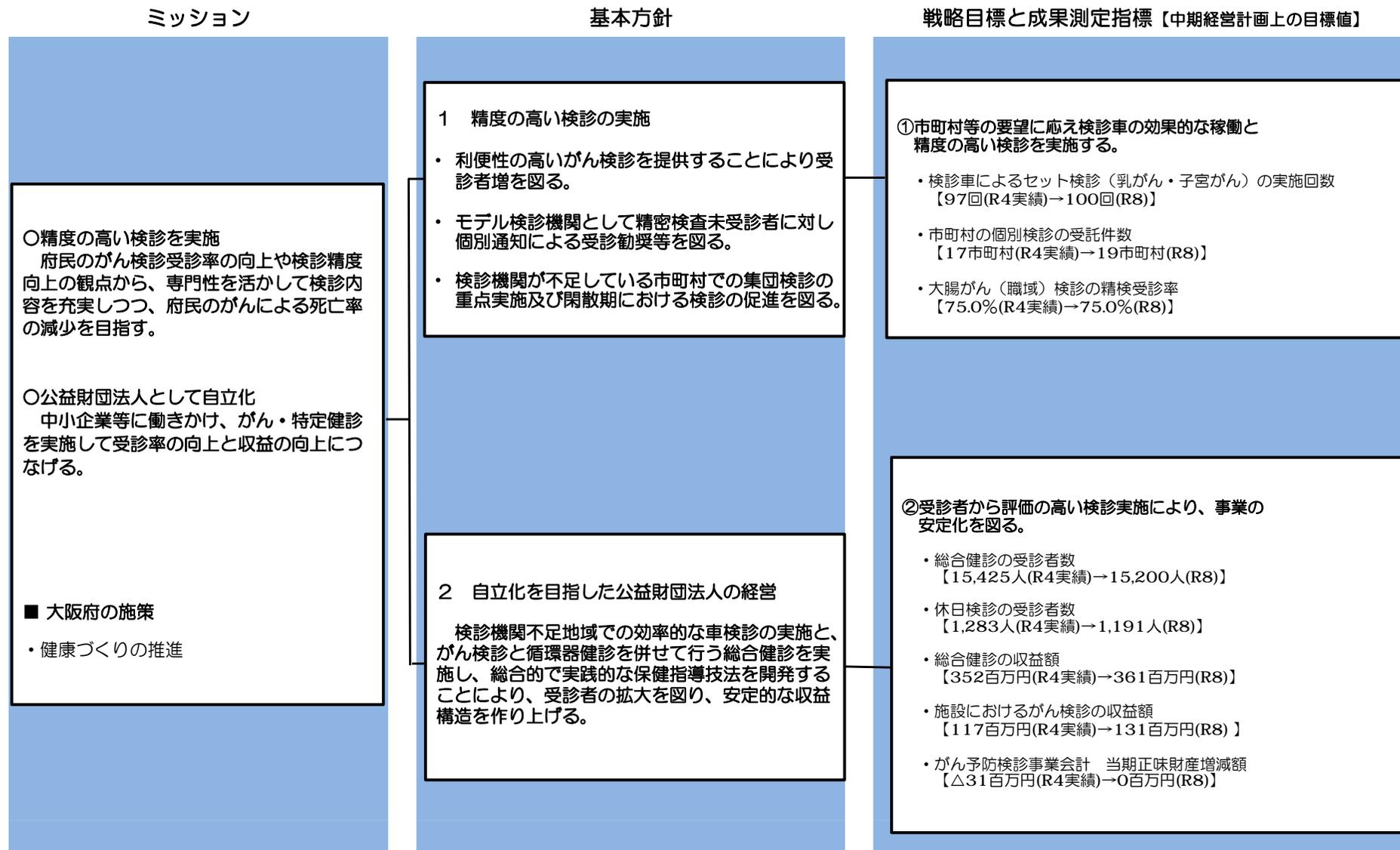


法人名	公益財団法人 大阪府保健医療財団
作成（所管課）	健康づくり課

## ○ 経営目標設定の考え方



法人名	公益財団法人 大阪府保健医療財団
-----	------------------

○ 令和5年度の経営目標達成状況及び令和6年度経営目標設定表

I. 最重要目標(成果測定指標)												
戦略目標	成果測定指標	新規	単位	R5 ウエイト	R4 実績値	R5 目標値	R5 実績値 【見込値】	R6 目標値	R6 ウエイト	中期経営計画 (R4~R6)		R6目標設定の考え方 (数値の根拠) ※累積数値による目標設定の場合は、その理由も記載
										R6 目標値	最終年度 目標値	
② 受診者から評価の高い検診実施により、事業の安定化を図る。	総合健診の受診者数		人	35	15,425	15,200	[16,400]	↓ 16,200	35	15,200	15,200	・R5年度は目標値を大幅に上回る見込みだが、R6年度は受託できた大規模団体検診の予定人数が5年度より減ることを勘案し、目標値を16,200人とする。
法人経営者の考え方(取組姿勢・決意)										戦略目標達成のための活動事項		
最重要とする理由、経営上の位置付け	<p>○当財団は、第3期中期経営計画(令和4年度~8年度)において、最重要とした「総合健診」は公益目的事業であるがん予防検診事業の事業収益のうち約40%を占めており、第3期中期経営目標の達成に与える影響が大きい。</p> <p>○また、当財団の設立目的は、府民の死亡原因の上位を占めるがんと循環器の予防を目指した事業を推進することであるが、「総合健診」は、まさにこの目的に沿った事業であり、その推進は府民の健康の保持・増進に寄与するものである。</p>											
最重要目標達成のための組織の課題、改善点	<p>○受診者数の多い大規模団体が毎年入札を実施しているが、新規参入した検診機関がいきなり低価格での入札を行ったため、落札できないケースがあった。また、年々単価が低下している低価格での入札は経営に悪影響を及ぼすため、公益目的事業として健診の質(精度)を確保しつつ、適正な価格での受託を目指すとともに、一つの大規模団体に頼らない収益構造に転換していく。</p> <p>○収益確保のため、改定した検診料金をもとに、受診枠の拡大、受診受付人数の工夫及び土曜検診の充実などを図り、収益の確保へ向けて最大の努力を図る。</p> <p>○当財団では多くの団体の検診を受託し、団体の希望に応じた健診メニューを提供しているが、検診システムの更新による業務の効率化を図る必要がある。</p> <p>○医師、検査技師、看護師などの医療スタッフの確保を図り、これらが要因で受診者の受けれがけないようなことはないようにする。</p>											
活動方針	<p>○第3期中期経営計画において、 【事業方針】 大阪府のがん死亡率が高く全国で最低レベルにある中、大阪がん循環器病予防センター(以下「当センター」という。)は府民のがん検診受診率や精度管理の向上に寄与しがんの早期発見、早期治療につなげるため、これまでに培ってきた専門性を活かし、受診者ニーズに対応したサービスの充実を図るとともに、収支構造の改善に取り組む。</p>											
<p>・大規模団体検診、特に大阪市職員検診を受託する。</p> <p>・トップセールスをはじめ営業活動の強化による新たな団体の獲得を図る。</p> <p>・週3日(火・水・木)の午後に設定した受診枠にがん検診(胃・大腸・肺がん・乳・子宮がん)を誘導することで、午前の総合健診の枠を確保し、効果的な総合健診の実施を図る。</p> <p>・大阪市民等をターゲットとした効果的な情報提供や、受診後の手厚い結果説明や病院紹介、受診勧奨やネット予約受付の拡大、クレジットカード支払い導入など受診者の利便性や満足度の向上に取り組む。</p>												

法人名	公益財団法人 大阪府保健医療財団
-----	------------------

**II. 設立目的と事業内容の適合性(事業効果、業績、CS)**

戦略目標	成果測定指標	新規	単位	R5 ウエイト	R4 実績値	R5 目標値	R5 実績値 〔見込値〕	R6 目標値	R6 ウエイト	中期経営計画 (R4~R6)		R6目標設定の考え方 (数値の根拠) ※累積数値による目標設定の場合 は、その理由も記載	戦略目標達成のための活動事項
										R6 目標値	最終年度 目標値		
① 市町村等の要望に応え検診車の効果的な稼働と精度の高い検診を実施する。	検診車によるセット検診(乳がん・子宮がん)の実施回数		回	10	97	97	[100]	101	10	98	100	検診車の台数が限られている中、現状では検診日を増加させることは困難である。その中でも、R5年度見込値を上回る101回を目指す。	・市町村が検診計画を作成する前に、実施可能であることのPRを行う。 ・午前中から子宮がん・乳がんのセット検診を実施することにより、受診者の増加を図る。
	市町村の個別検診の受託件数		市町村	10	17	18	18	18	10	18	19	現在契約している検診機関があり委託先を変更してもらうことは非常に困難である。その中でも、R5年度実績値と同程度である中期経営計画の目標値の18件を目指す。	・個別検診の意向のある市町村に対し、積極的な働きかけを行う。
	大腸がん(職域)検診の精検受診率(精検受診者数/要精検者数)		%	10	75.0	75.0	[75.0]	75.0	10	75.0	75.0	精密検診による早期発見は重要であり、受診率は、国が定める許容値の70%を上回る目標値である75.0%を目標としており、高水準での維持を目標とする。	・当センター以外での受診状況を把握し、未受診者への受診勧奨を行うことにより、受診率を向上させる。
② 受診者から評価の高い検診実施により、事業の安定化を図る。	休日検診の受診者数		人	10	1,283	1,150	×1,087	1,150	10	1,150	1,191	R5年度実績値に毎回2名(年間実施回数24回)以上を上乗せし、中期経営計画の目標値を目指す。	・当センターHP上でのPRや電話による個別の申込受付の際には、女性検診については土曜日への案内や誘導を積極的にするよう取り組む。 ・府内自治体に対して、女性のための土曜検診(子宮がん・乳がん検診、その他オプション検査)についてのお知らせ文書を出し、住民周知を依頼する。

**III. 健全性・採算性(財務)、コスト抑制と経営資源の有効活用・自立性の向上(効率性)**

② 受診者から評価の高い検診実施により、事業の安定化を図る。	総合健診の収益額		百万円	10	352	355	[402]	↓395	10	353	361	○R5年度は目標値を大幅に上回る見込みだが、R6年度は受託できた大規模団体検診の予定人数が5年度より減ることを勘案し、目標値を設定する。 ○検診料金の改定効果や利便性向上で受診者の確保を行うことで、収益性の向上を見込み、目標値のクリアを目指す。	・人間ドック健診等収益率の高い総合健診(特定保健指導受診勧奨等)の受診者増加を効果的な広報を実施することにより収益の安定につなげる。
	施設におけるがん検診の収益額		百万円	5	117	128	×[110]	124	5	129	131	○検診料金の改定効果や利便性向上で受診者の確保を行うとともに、がん単独検診やオプション検診の件数を伸ばす努力をし、R5見込値を上回る数値を目指す。	・大阪市の住民検診をターゲットに効果的な宣伝を行い、胃・大腸・乳・子宮及び肺がん検診受診者の確保を図り収益の安定につなげる。
	がん予防検診事業会計 当期正味財産増減額		百万円	10	△31	△43	[△26]	↓△35	10	△35	0	○受診者の利便性の向上や検診料金の改定効果などとともに、総合健診・施設がん検診・車検診の収益増を図り、中期経営計画のR6目標値を目指す。	・受診者の拡大や受診受付人数を工夫するとともに、土曜検診の充実などを図り、安全安心の確保とともに、収益の確保へ向けて最大の努力を図り、経営の改善につなげる。 ・収益確保のための取組みとして、総合健診受診者数の増、休日検診の実施、オプション検査の拡大、午後検診者数の拡大、車検診(セット検診)の効率的運営を図る。

【凡例】

- ・☆はR6年度からの新規項目
- ・×は目標値未達成
- ・↓は前年度実績比マイナスの目標値
- ・〔 〕内の数値は、参考として記入した実績見込値
- ・( )内の数値は、当該年度の経営目標として設定していないため、参考として記入した実績値

## CS調査の実施概要

## ○令和5年度の実施結果

調査内容	実施方法	アンケート等対象者	対象者数	実施時期
大阪がん循環器病予防センターにおける健(検)診の満足度	受付で調査票を配布し、受診者が自書のうえ回収箱に投かん	・施設検診受診者	499人	令和5年10月2日～10月10日

実施結果の主な内容	実施結果を踏まえた取組
<p>結果の概要</p> <p>受診者の年齢構成は前回調査では40歳代・50歳代が約半数を占めていたのに対し、今回の調査では30歳代以下の受診者数の増加傾向がみられ、若年層の健康志向への高まりが見受けられる結果となっている。</p> <p>また、性別では男性の受診者の比率が増加しており、検診に対する意識が男女差なく高まりつつあることがわかる。</p> <p>「検診スタッフの言動・態度」以降、受診者の方の評価は満足など好意的な評価が、過去同様に高い水準を維持する。</p> <p>今後も高水準な満足度を維持するため、インシデント情報や受診者の方のご意見などの的確な対応をすることで、より一層の改革・改善を実施していく。</p> <p>○年齢 50歳代、60歳代、40歳代以上の順に多く、全体の71.1%を占める 30歳代以下の受診者が増加傾向にある</p> <p>○性別 女性が55.4%を占める 令和3年度より男性の比率が増加した</p> <p>○受診した理由(複数回答) 会社(団体)の指定が最多で、全体の30.9%を占める</p> <p>○健診(検診)スタッフの言動・態度 「満足」は89.8%、「ほぼ満足」4.5%で併せて94.3%を占め、毎回高い評価となっている。</p> <p>○次回も当センターを受診したいと思うか 92.3%の受診者が「次回も当センターを受診したい」と回答</p>	<p>(結果を踏まえ実施した取組)</p> <p>・アンケート結果を職員に周知し、各所属において更なる改善点を協議し、改善できるものについては、直ちに対応する。</p> <p>(今後実施予定の取組)</p> <p>個別に記述された意見等を分析し、改善点に結び付けていくとともに、引き続き満足度を高めるよう努力する。</p>

## ○令和6年度の実施方針

調査内容	実施方法	アンケート等対象者	対象者数	実施時期
大阪がん循環器病予防センターにおける車検診の満足度	検診会場で調査票を配布し、受診者が自書のうえ回収箱に投かん。	・車検診受診者	500人	令和6年10月(予定)

■ 目標値未達成の要因について

法人名 公益財団法人 大阪府保健医療財団

[1]

成果測定指標	単位	R5年度目標値	R5年度実績値	目標値との差
休日検診の受診者数	人	1,150	1,087	△63

未達成の要因		要因分析（要因と考える根拠）				要因分析を踏まえた今後の対応			
①	新型コロナが落ち着き休日に受診するメリットが減少したこと	子宮がん・乳がんの女性の受診者数自体は増えていることから、新型コロナの感染を恐れ、混雑を避けてすいている休日を選択する必要が少なくなったものと考えられる。				・当センターHP上で個別ページを作成、トピックスへも掲載してPRや電話による個別の申込受付の際には、女性検診については土曜日への案内や誘導を積極的にするよう取り組んでおり、さらに令和6年から府内自治体に対しても、女性のための土曜検診（子宮がん・乳がん検診、その他オプション検査）についてのお知らせ文書を発出、住民周知を依頼している。			
	関連項目名	子宮がん・乳がん受診者数	単位	人	R5当初想定値			14,480	R5実績値

■ 目標値未達成の要因について

[2]

成果測定指標	単位	R5年度目標値	R5年度実績値	目標値との差
施設におけるがん検診の収益額	百万円	128	{110}	△18

未達成の要因				要因分析（要因と考える根拠）				要因分析を踏まえた今後の対応	
①	実質的な施設がん検診者数が減少したこと			がん単独検診やオプション検診の件数が伸びなかったため、収益が目標に達しなかった。  当初目標件数 <b>40,980</b> 件（施設平均単価 <b>3,123</b> 円） 見込件数 <b>36,380</b> 件（施設平均単価 <b>3,034</b> 円）				・大阪市の住民検診をターゲットに効果的な宣伝を行い、胃・大腸・乳・子宮及び肺がん検診受診者の確保を図る。 ・受診勧奨や受付時の複数受診の働きかけなどを積極的に行う。	
	関連項目名	収益額	単位	百万円	R5当初想定値	128	R5実績値		

■ 令和5年度実績比 マイナス（現状維持）目標の考え方について

〔1〕

	単位	R5年度の実績値〔見込値〕	R6年度の目標値
総合健診の受診者数	人	[16,400]	16,200

〔2〕

成果測定指標	単位	R5年度の実績値〔見込値〕	R6年度の目標値
市町村の個別検診の受託件数	市町村	18	18

マイナス  
（現状維持）  
目標の考え方

令和5年度は目標値を大幅に上回ったが、6年度は受託した大規模団体の検診対象の予定人数が5年度より減ることを勘案し、目標値を設定している。

マイナス  
（現状維持）  
目標の考え方

市町村は現在契約している検診機関があり、委託先を変更してもらうことは非常に困難であるが、当財団の強みをアピールしながら、アプローチしているところ。令和5年度は1団体増やすことができた。令和8年度までの中期経営計画期間に19団体にすることを目標にしており、そのため令和6年度は現状と同じ18団体を目標とする。

■ 令和5年度実績比 マイナス（現状維持）目標の考え方について

〔3〕

	単位	R5年度の実績値〔見込値〕	R6年度の目標値
大腸がん（職域）検診の精検受診率 （精検受診者数/要精検者数）	%	〔75.0〕	75.0

<p><b>マイナス（現状維持）目標の考え方</b></p>	<p>精密検診による早期発見は重要であり、受診率は、国が定める許容値の70%を上回る75.0%を目標としており、高水準での維持を目標とする。</p>
--------------------------------	--

〔4〕

成果測定指標	単位	R5年度の実績値〔見込値〕	R6年度の目標値
総合健診の収益額	百万円	〔402〕	395

<p><b>マイナス（現状維持）目標の考え方</b></p>	<p>令和5年度は目標値を大幅に上回ったが、6年度は受託した大規模団体の検診対象の予定人数が5年度より減ることを勘案し、目標値を設定している。</p>
--------------------------------	---

■ 令和5年度実績比 マイナス（現状維持）目標の考え方について

〔5〕

	単位	R5年度の実績値(見込値)	R6年度の目標値
がん予防検診事業会計 当期正味財産増減額	百万円	[△26]	△35

<b>マイナス (現状維持) 目標の考え方</b>	<p>令和5年度は経費支出において当初計画より常勤医師を確保できなかったことや離職者の不補充により、結果として人件費が抑制されたことや、機器等の修繕の発生が少なかったことなどの事情で収支が改善に向かったが、6年度は5年度と同様に予定していた車検診事業において、一部条件が合わずに入札参加できなかった事業や、入札したが受託できなかった事業があり、収入減が見込まれること等から中期経営計画の目標値と同等の△35百万円としている。</p>
-----------------------------------	--

〔6〕

成果測定指標	単位	R5年度の実績値(見込値)	R6年度の目標値
/			

<b>マイナス (現状維持) 目標の考え方</b>	/		
-----------------------------------	---	--	--